

## 東大和市学校規模等のあり方検討委員会（第2回）会議録

### 1. 開催日時

平成22年2月24日（水）午前9時から

### 2. 開催場所

中央図書館視聴覚室

### 3. 出席者

委員 青野かほる 荒川進 小川雅義 鈴木一徳 高嶋清和  
渡辺理万 菊地明 菊地フミ子  
事務局 阿部学校教育部長 下平学校教育課長  
山崎学務係長 石原主事

### 4. 公開・非公開の別

公開

### 5. 傍聴者数

0人

### 6. 議題

- (1) 配付資料への質疑
- (2) 各委員の学校規模等に関する考え方
- (3) その他

### 7. 会議の要旨

- (1) 事務局から年間計画素案が提示された。

《年間計画 素案》

- ①大規模校（五小・八小）、小規模校（三小・九小）の視察とまとめ
- ②先進事例（多摩市・東久留米市他）視察と検討
- ③シミュレーションによる検討
- ④新しい教育の動向について（指導室長等から説明を受ける。）

- (2) 発言

- ・委員：八小はボーダーの学年があるようだが、学級増になってしまうのか。
- 事務局：4月7日が最終的な基準日。児童生徒1人2人の変化で学級数が変わってしまうこともあるので、八小は教室数がギリギリの状況となって

いる。

- ・ 委 員：通学区域制度の弾力化は、前回審議会の考え方が優先されるのか。  
事務局：学区域の決め方は法律の規定がない。市町村にまかされている。前回の審議会答申は、学校選択制は時期尚早ということで、教育委員会では通学区域制度の弾力化を進めてきた。このあたりも今回議論していただきたい。
- ・ 委 員：子どもが楽しく学校に通える開かれた学校として、地域やP T Aとのコミュニケーションを大切にして欲しいと考えている。  
事務局：できれば報告書の中に項目を入れていただきたい。
- ・ 委 員：今回の資料からは、あまり緊急の課題がみえてこないのでは。また、前回の審議会の答申と、最新の児童生徒数の推計とで違いがあるのはなぜか。  
事務局：今回は、生の資料で現状についての説明を行った。今後、実際に学校を見たりしていくことで、課題が見えてくるのではと考えている。前回の審議会の答申は平成15年度に推計を行っており、その後地域の状況が都営住宅の建て替えやマンション建設等により大きく変化した学校については推計人数に違いが生じている。
- ・ 委 員：実際に学校の状況を見たり、マンションもどの辺の場所にどのようなものが出来るのか等を理解した上で、地域性も加味して進めて行けたら良いと思っている。
- ・ 委 員：年間計画の素案に沿って進めていくことが大事と考えている。五小・八小が大規模校と言えるかについては、どちらかといえば適正規模と考える。4学級並びは学校経営上良い。全校6学級はいじる必要があるが、7～8学級はまだ、いじる必要はないと考えている。
- ・ 委 員：人口規模に応じた学校数の考え方は、必ずしも先進とはいえないのでは。
- ・ 委 員：教育委員会は、学校選択制や小・中一貫連携について、どう考えているのか。  
事務局：小・中連携は、平成22年度は重点課題としていく予定。
- ・ 委 員：前回の答申書にあるようなシミュレーションがあれば、検討がやりや

すい。

事務局：調整区域の関係で、八小、十小はシミュレーションをした。検討エリアを分ける方法もある。ご要望をいただければ作成する。

- ・委員：九小、七小の通学区域の変更の時に、通学区域制度の弾力化が使えることが十分に市民に周知されていなかったように思う。
- ・委員：最近、家庭の事情によって、簡単に転出入をする家庭もあるので、シミュレーションが難しい状況もあるのでは。
- ・委員：校舎の老朽化も目立つので、この委員会の中でもローテーションについても考えた方が良いのでは。
- ・委員：早急に検討すべき課題については、前回の答申を踏まえて検討を行い、中・長期的な課題は、時間をかけて検討していくことが良いのでは。

- ・委員：当初の方針と変更があった箇所を教えてください。

事務局：平成17年の教育委員会で、三小、五小、六小の通学区域の見直しについては、一定のマンション建設が落ち着いた状況で対策を考えることとなった。

- ・委員：七小・九小の通学区域の変更、八小の調整区域の設定は終わっている。まず、答申の中で積み残した部分をどうしたら良いか考えていく方が良いので、事務局がこれはここまで進んでいる。これは残っているということを整理して欲しい。その上で、付け加えるものがあったら付け加えたらどうか。

事務局：危機感を持っているのは八小で、実際に見ていただいた上で、取り出して議論を早めて欲しいと考えている。

小・中連携は、平成22年度は重点課題としていく予定。

前回答申は、ベースとしている。今の状況から見て、そのままが良いのか、新しい視点を加えてアレンジしていくのかの議論をしていく必要もあると考えている。

弾力化の視点も時代の方向性と考えている。

早急に対応するものと、中・長期的に対応するものもあると考えている。

### (3) 次回の委員会について

次回は平成22年4月22日（木）午前中に開催する。

会議の前に、第八小学校を視察する。